



おじいさんについて

--	--	--	--	--



豆太について

--	--	--	--	--

「モチモチの木」を読んで、どんなことを思ったかな。初めの感想を書こう

「モチモチの木」学習プリント①

名前

--

「モチモチの木」学習プリント②

名前



① 「まったく、豆太ほどおくびようなやつはいない」と書いていますね。それがわかる文や言葉に線を引いてごらん。
(「おくびよう豆太」「やい、木い」の場面で)

② じさまは、どんな人ですか？



そのことがわかる文や言葉に線を引いてごらん。

豆太へ

--	--	--	--	--	--

「豆太への手紙」



おくびよう豆太に
どんなことを言って
やろうか……

「モチモチの木」学習プリント③

名前

①じいさまからモチモチの木に灯がともる話を聞いて豆太はどう思っただろう？

つづきをそうぞうして書いてみよう

それじゃあ、おらはとつてもだめだ――

昼間だったら、見てえなあ――



豆太へ

「豆太への手紙」②



よいの口からねてしまった豆太に、どんなことを言ってやろうかな……

「モチモチの木」学習プリント④

名前

「豆太は見た」の場面

豆太のようすや気持ちがうかんできくる文や言葉に線を引いて、その横に思ったことを書こう

豆太は、真夜中に、ひよっと目をさました。頭の上で、くまのうなり声が聞こえたからだ。

「じさまあつ。」

おちゅうでじさまにしがみつこうとしたが、じさまはいない。

「ま、豆太、心配すんな。じさまは、じさまは、ちょっとはらがいてえただけだ。」

まくら元で、くまみたいに体を丸めてうなっていたのは、じさまだった。

「じさまっ。」

こわくて、びつくらして、豆太はじさまにとびついた。

けれども、じさまは、ころりとたたみに転げると、歯を食いしばって、ますますすごくなるだけだ。

「医者様をよばなくっちゃ。」



豆太は、小犬みたいに体を丸めて、表戸を体でふつとばして走り出した。

ねまきのまんま。はだしで。半道もあるふもとの村まで。

外はすごい星で、月もでていた。とうげの下りの坂道は、一面の

真っ白い下で、雪みたいだった。霜が足にかみついた。足からは血が出

た。豆太は、なきなき走った。いたくて、寒くて、こわかったから

なあ。

でも、大すきなじさまの死んじまうほうが、

もっとこわかったから、なきなきふもとの医者様へ

走った。



豆太へ

「豆太への手紙」③



医者様をよびに走る豆太に
どんなことを言ってあげようか……

「モチモチの木」学習プリント⑥

名前

じさまの言葉をていねいに写しましょう。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

豆太は、それを聞いて、
どんなことを思っているだろう



--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

豆太へ

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

「豆太への手紙」④

じさまが元気になったら、またしょんべんにおこしてもらっている豆太に、何と言ってやろうか……

